

台湾における ローカル 5G 構築の現状

鄧德雋 (Deng, Der-Jiunn)

經濟部技術處 科学技術専門家

【要旨】

2020 年、世界は 5G の商用化に向かって着実に歩みを進めています。2019 年 5 月 10 日、台湾の行政院は、5G がもたらす巨大な商機をつかみとるべく、「台湾 5G 行動計画」を可決しました。2019 年から 2022 年までの 4 年間で 204 億元の投資が見込まれています。同計画のもと、台湾は 5G をリードし仮想世界と現実世界の双方を並行して発展させる戦略を掲げ、5G 通信における様々な付加価値サービスや垂直アプリケーションを開発することで、5G のイノベーションや運用に適した環境作りを進めていきます。5G ネットワークの商用化に加え、台湾は日本、ドイツ、イギリス等と歩みをともにし、ローカル 5G の整備を計画しています。これにより 5G と AI、IoT、情報セキュリティ等との統合を加速させ、バーティカルセクターにおけるアプリケーションの創出を図ります。

5G の商用化にはまず周波数帯の確定が先決となります。2019 年 12 月 5 日、行政院は 4.8～4.9GHz 帯を企業のローカルネットワーク向けに割り当てることを決定しました。専用の周波数帯をローカルネットワークに割り当て、独立した運用を可能とすることで、ネットワーク接続における通信品質と情報セキュリティを確保します。各界における実証実験の申請はすでに可能となっており、タイミングを見計らい 2、3 年以内には免許の申請が開始となる予定です。

講演では、ローカル 5G のアプリケーションという切り口から、台湾におけるローカ

ル 5G 商用化の準備状況についてお話します。ローカル 5G の周波数帯の整備、商用モデル、実験ネットワークアプリケーションの状況、業界ごとの状況の整理、技術開発の状況等を含め、台湾におけるローカル 5G の現状を詳しく紹介します。